

開

いちご一会。

昭和21(1946)年から始まった国体(国民体育大会)は、毎年都道府県持ち回りで開催される国内最大のスポーツの祭典です。「冬季大会」と「本大会」の競技得点の合計を競い合い、天皇杯(男女総合成績第1位)・皇后杯(女子総合成績第1位)の獲得を目指し、代表選手が各競技で熱い戦いを繰り広げます。第77回となる「いちご一会とちぎ国体」の舞台は、ここ、栃木県。本県で国体が行われるのは昭和55(1980)年に行われた第35回国体「栃の葉国体」以来42年ぶりのこと。正式競技37競技のうち5競技とデモンストラーションスポーツ2競技が本市で開催されるほか、本大会閉会後には、第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」も開催されます。

サッカー(少年女子)



10月3日(月)・4日(火)

ソフトテニス



10月7日(金)～10日(祝)(月)

ボッチャ



10月29日(土)・30日(日)

馬術



10月6日(木)～10日(祝)(月)

トライアスロン



10月2日(日)

ゴルフ



10月5日(水)～7日(金)

きよか 炬火名決定だモ～!

開拓の魂燃ゆる 那須塩原の火

多数の応募の中から選ばれた炬火名は、高久麻巳子さん(弥生町)の作品。「那須野が原を開拓した明治貴族の情熱と、競技に打ち込む選手の熱い思いを結びつけてこの炬火名を考案しました。選手の方々にあって、最高のパフォーマンスができる国体になればうれしいです」と選手にエールを送ってくれました。



幕

1年1度の大会を振り返る

今国体のスローガンは「夢を感動へ。感動を未来へ。」です。アスリートたちが夢に向かって突き進む姿は、大会に関わる全ての人に感動を与えます。その感動をレガシーとして、未来の人づくり、地域づくりにつなげていきたいという願いが込められています。

また、本市は「ゼロカーボン・プラゴミゼロ国体」に挑戦しています。経木・紙を用いたお弁当箱を使用したり、原料の一部をおからを用いたバイオプラスチック袋を利用したりするほか、トライアスロン競技では、

会場で使用する電気を全て※小水力発電で充電した電気自動車からの給電で賄います。未来に向けた「持続可能なまちづくり」のための、全国的に見ても非常に価値のある国体になるでしょう。

今国体の愛称の「いちご一会とちぎ国体」。本県の「いちご」の生産量が半世紀に渡って本県が日本一であることもあり、テーマソングのタイトルにもなっています。「いちご王国」で行われる国体に参加する全ての人々が、県民の心のこもったさまざまなおもてなしに出会い、交流を深めることで新たな夢や感動が生まれることを目指します。特産品である「いちご」と掛けてひらがなにしていますが、元々の「一期一会」の意味は「一生に一度の出会いであること」や「生涯に一回しかないと考えて、そのことに専念すること」です。前回本県で開催された国体は42年前。一昨年の鹿児島国体、昨年の三重国体はコロナ禍で中止になったため、今回のように、地元で開催される国体に参加できる機会は二度とないかもしれません。

選手として、観客として、ボランティアとして。国体には、さまざまな参加の仕方があります。一期一会の「生」の出会いを、ぜひ体感してください。

※農業用水などの水の流れを利用して発電する方法。